

人間総合科学学術院
人間総合科学研究群

学位プログラム名	課程	アドミッションポリシー	
教育学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	教育学学位(博士前期課程)プログラムでは、国内外の大学・研究機関等において教育学諸分野の教育・研究に従事する研究者を志す人材に加え、国内外の行政機関・国際機関等で教育学の学術的アプローチを用いて教育政策の効果分析、政策形成、教育開発援助等に従事する研究力のある高度専門職業人や、国内外の教育行政機関、学校、社会教育・生涯学習機関、NPO 等の教育関連組織等で教育活動や人材育成をリードする研究力のある高度専門職業人を志す人材を募集する。教育学部等における教育学研究の経験者や教員養成系の学部等で職業人としての教員の資質・能力を獲得した者はもちろん、理学部や人文・社会学部などで培った高度な専門性と教育という人間の基礎的な営みとの関係に関心のある者や、学校に限定されない広範な人間のコミュニティにおける教育活動に関心のある者も、入学可能である。
		入学者選抜方針	入学試験は専門試験、専門外国語試験(英語)、口述試験を基本とし、社会人特別選抜や留学生対象の英語による試験を設け、様々な学びの形態をサポートする。各試験科目の結果を総合的に評価し、適性を審査する。
	博士後期課程	求める人材	教育の現実的問題と本質的な問題に深い関心を抱き、博士前期課程において教育学の基礎的知識並びに研究方法の基礎を習得し、明確な研究課題をもって、主体的かつ意欲的に研究する姿勢のある人材を求める。教育学の学問的知見に基づいて、幅広い視野と深い専門的知識をもって様々な教育課題を解決しようとして国内外の専門学会で活躍できる素養をもった人材を求める。
		入学者選抜方針	入試委員会による管轄の下、年間2回(10月期・2月期)に分けて選抜を行う。選抜方法は、修士論文(または修士論文に代わる論文)の内容についての審査、及び本学位プログラムでの研究計画に基づく口述試験による。また、募集人員を定めて社会人特別選抜を実施する。
心理学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	心理学学位プログラム(博士前期課程)では、心理学の方法論や知識・技能を意欲的に習得し、博士後期課程に進みさらに心理学の研究を目指す研究者養成を志す人材に加え、公認心理師・臨床心理士、感性工学・人間工学・認知工学に関わる専門家、社会調査および市場調査など社会心理学的状況を分析する専門家、人事管理・人事評価に関わる専門家、心理学の専門性を持った公務員等、心理学の専門的研究能力をベースとする高度専門職を目指す人材を募集する。人間理解のための心理学を深く志す者を対象とし、自律的に学んでいく人材を求め、心理学に関係した学部の出身者ばかりでなく、これから心理学を専門的に学び、追究しようとする人も入学可能である。
		入学者選抜方針	入学試験は専門試験、専門外国語試験(英語)、口述試験により行う。心理学の基礎知識、ならびに基礎的なスキルを一定程度、獲得しており、文

			献研究・実証研究を行っていくための基礎能力を備えていることが必要とされる。
	博士後期課程	求める人材	心理学学位プログラム(博士後期課程)では、心理学に関わる研究者・大学教員あるいは高度専門職業人をを目指す人材を募集する。大学院前期課程(心理学関連)を修了したばかりの者ではなく、既に社会人として、心理学に関連した専門の業務に携わっている人材を募集する。
		入学者選抜方針	・入学試験は、専門外国語(英語)ならびに口述試験により選抜を行う。 ・心理学学位プログラム(博士前期課程)からの内部進学特別入試を実施し、特に優秀な人材の学位(博士)の習得を促進する。
障害科学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	障害に関わる、生涯の教育・福祉的支援、行政、国際協力等への貢献を志す人材で、研究者や高度専門職として、この分野での活躍に意欲のある人材を求める。学部段階で障害科学の基礎を学習した者、または障害科学以外の専門分野の出身で、障害科学を専門的に学ぼうとする者、教員・社会人、医療系の資格を有する者、外国人留学生等を幅広く受け入れる。
		入学者選抜方針	一般、推薦、社会人特別選抜の3種類の入学試験を実施する。また長期履修制度による課程修了も可能とする。 ・一般入試では、外国語(英語)、障害科学に関する専門科目、口述試験を通して審査する。 ・推薦入試では、障害科学に関する専門知識と英語能力、及び科学的・論理的な思考についての論述形式の筆記試験、ならびに研究計画等に関する口述試験を通して審査する。 ・社会人特別選抜では、受験生のこれまでの実践あるいはその背景にある知識や技能を中心に審査する。
	博士後期課程	求める人材	障害科学に関わる知識と研究の能力を備え、国内外の最先端の研究に強い関心を持ち、将来、障害に関わる教育、福祉、臨床、行政、国際協力等の分野における研究者をめざす人材を求める。
		入学者選抜方針	・入学試験は2月期に実施する。修士論文等の審査、研究計画に関する口頭発表および口述試験により評価を行う。 ・入学試験を通じて、入学者の障害科学に関する知識と研究能力について審査する。
カウンセリング 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	自らの持つ豊富な職業経験を基盤として、カウンセリング関連領域における幅広い視野の獲得と専門性の深化・開発、研究技法の習得を図り、職場や社会での諸問題について科学的・実践的・開発的に解決して、社会に貢献したいという意思と意欲を持った、現職社会人・心理臨床専門家等の人材を募集する。
		入学者選抜方針	入試は2段階で行う。一次試験では書類審査、論述試験の結果を総合的に判断し、二次試験は一次試験合格者に対して口述試験を実施する。口述試験結果と第一次試験の結果を総合的に判断して最終合格者を決定する。
カウンセリング科学 学位プログラム	博士後期課程	求める人材	本プログラムでは、現職社会人の立場と経験を活かしつつ、カウンセリング科学に関わる実践的課題について、カウンセリング科学の技術を駆使

			して主体的かつ意欲的に研究的探求を行うことができる人材を育成することを目的としている。特に、企業や学校教育関係(特別支援教育を含む)、心理関連領域、医療・保健機関、福祉施設・相談施設、心理・リハビリテーション専門職養成校、職業支援センターや障がい者雇用企業、官公庁・行政機関などでの職務経験を有し、新しい研究創出と、実践臨床に高い関心を有する者が望ましい。
		入学者選抜方針	原則として入学までに概ね2年以上の有職経験を有することを条件に、入学候補者の選抜は、外国語試験、口述試験及びその他の出願書類の審査結果を総合的に判定して行う。11月に行われる入試について、入試情報を5月に公開し、募集は10月上旬を締め切りとする。合格者は12月上旬に発表する。
リハビリテーション科学学位プログラム	博士前期課程	求める人材	高齢者・障害者・子どもといったライフスパンに対する総合的・包括的なリハビリテーションに関心を持ち、学際的な研究の視点のある研究者および専門職業人を対象にした教育を行う。これに加えて、リハビリテーションの4つの分野(医学・教育・社会・職業領域)を横断的に分析・研究できるリハビリテーションに関わる研究者と高度専門職業人の養成に力点を置いた教育をする。
		入学者選抜方針	大学卒業後、リハビリテーション関連分野での実務経験を1年以上有している社会人に対して、入学試験を行う。入学試験は、入試情報公開、オープンキャンパス・入試説明会の実施(4月、5月)を経て、募集は7月中旬を締切とする。8月下旬に入学試験を実施し、10月に翌年4月の入学の合格者を発表する。入学試験は、書類審査、基本的な知識をみるための論述式試験、志望動機に関する面接により評価を行う。
	博士後期課程	求める人材	本プログラムでは、現職社会人の立場と経験を活かしつつ、リハビリテーション科学に関わる実践的課題について、リハビリテーション科学の技術を駆使して主体的かつ意欲的に研究的探求を行うことができる人材を育成することを目的としている。特に、医療・保健機関、福祉施設・学校教育関係(特別支援教育を含む)、リハビリテーション専門職養成校、職業支援センターや障害者雇用企業、官公庁・行政機関などでの職務経験を有し、新しい研究創出と、実践臨床に高い関心を有する者が望まれる。
		入学者選抜方針	原則として入学までに概ね2年以上の有職経験を有することを条件に、入学候補者の選抜は、外国語試験、口述試験及びその他の出願書類の審査結果を総合的に判定して行う。
フロンティア医科学学位プログラム	修士課程	求める人材	医科学に関する基礎的な知識を有し、論理的な分析力、独創的で柔軟な着想によって積極的に研究を行う意欲を持つ人の入学を求める。入学後には、医科学の基盤知識、高度な専門知識を学修するのみではなく、当面する専門領域における諸問題について、包括的な視点でそれを解明し、解決できる能力を自ら修得する学生を求める。
		入学者選抜方針	・筆記試験および口述試験を行い、両者を総合的に評価して入学者を選抜する。 ・筆記試験では、英語の能力および医科学に関する基礎知識を評価する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・口述試験では、論理的的分析力、独創的かつ柔軟な着想力および学修意欲を評価する。 ・筆記試験および口述試験は、受験生の希望に応じて日本語あるいは英語で行う。
公衆衛生学 学位プログラム	修士課程	求める人材	論理的な分析力、独創的で柔軟な着想によって積極的に公衆衛生学的課題を解決しようとする意欲を持つ人の入学を求めている。学生はカリキュラムに従って学習するのみではなく、修士論文研究やインターンシップなどを通じて、専門領域における諸問題について、包括的な視点でそれを解明し、解決できる能力を自ら修得する姿勢が求められる。
		入学者選抜方針	筆記試験および口述試験を行い、入学者を選抜する。筆記試験は、英語の能力および公衆衛生に関する基礎知識の両方を評価しうる問題を作成する。口述試験は、日本語あるいは英語で行う。
ヒューマン・ケア科学 学位プログラム	3年制博士課程	求める人材	ヒューマン・ケア関連諸科学やその領域の問題に深い関心を持ち、その科学的解明、課題解決に学際的視点から意欲的に取り組む意識を有すること。また高度な専門的知識と技術を通して様ざまな地球規模の課題解決をめざす人材、国内外で貢献する人材
		入学者選抜方針	選抜は、研究・実践・国際連携の能力を中心に、専門および英語の筆記試験、研究計画に基づく口述試験が行われ、総合的に評価する。
パブリックヘルス 学位プログラム	3年制博士課程	求める人材	公衆衛生学関連諸科学やその領域の問題に深い関心を持ち、その科学的解明、課題解決に学際的視点から意欲的に取り組む意識を有すること。また高度な専門的知識と技術を通して様ざまな地球規模の課題解決をめざす人材、国内外で貢献する人材
		入学者選抜方針	選抜は、研究・実践・国際連携の能力を中心に、専門および英語の筆記試験、研究計画に基づく口述試験が行われ、総合的に評価する。
ニューロサイエンス 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	広く、脳機能や行動、心、およびその異常についての専門的研究に関心の高い人材。神経科学、心理学、障害科学、生物学、基礎医学などの学部教育を受けた者が望ましいが、必須ではない。
		入学者選抜方針	入学試験は筆記試験と口述試問によって行い、語学力、専門分野の知識、学習に対する意欲や資質を総合的に評価する。
	博士後期課程	求める人材	博士前期課程において、神経科学、心理学、障害科学、生物学、基礎医学を専攻した者。前期課程で一定の力をつけていることを前提とし、修了後研究者として自立する能力と意欲を有する人材。
		入学者選抜方針	入学試験は口述試験により行う。選抜に当たって重視する資質は、①博士前期課程(修士課程)で行った研究の内容と理解度、②研究企画力、③プレゼンテーション能力とする。
スポーツ医学 学位プログラム	3年制博士課程	求める人材	スポーツと健康、競技者の競技力向上、外傷・傷害予防及び疾患の予防に関する知識を有し、これを基盤としてスポーツ医学に関する研究能力を高めようとする意欲を持ち、競技スポーツや健康スポーツなどの関連領域で活躍できる人材を求める。

		<p>入学者選抜方針</p>	<p>・入学試験では、英語の筆記試験とこれまでにに行った研究及び研究計画についての口頭試問により総合的にスポーツ医学の知識や学習意欲を評価する。</p> <p>・社会人のための特別な入学試験や科目履修のための配慮は行わないが、これまでの経験では社会人は一般的に学習意欲が高く、優秀な成績を修める学生が多いので、積極的に受け入れる。</p>
<p>看護科学 学位プログラム</p>	<p>博士前期課程</p>	<p>求める人材</p>	<p>看護科学に関する基礎的な素養を備えており、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて国際水準の看護を探究する意欲をもち、修了後に、看護の指導的な役割を担う教育者、研究者、専門看護師、助産師を目指す人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p>	<p>・8月に入学試験を実施し、8月期の入学試験において定員に満たない場合には2月に再度試験を実施する。</p> <p>・募集人数は15名(外国人留学生、社会人特別選抜の募集を含む)とする。</p> <p>・社会人特別選抜の出願資格として、次のいずれかに該当し、入学時に保健・医療・福祉関連の領域で、概ね3年以上の実務経験(通算可)を有する者を対象とする。①大学(4年制)を卒業した者、あるいは入学前年度3月までにその見込みのある者、②学位の学位を授与された者、あるいは入学前年度3月までにその見込みのある者、③外国において学校教育における16年の課程を修了した者、あるいは入学前年度3月までにその見込みのある者。④本学大学院において行う出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者及び入学前年度3月までに22歳に達する者。</p> <p>・一般入試では、専門科目(看護科学に関連した基礎課題)と英語の筆記試験、口述試験により、学力査定と人物評価を行う。専門科目の試験の目的は、受験者の看護の基礎的知識を幅広い範囲で評価することである。英語の試験の目的は、大学生レベルの英文読解力を評価することである。口述試験では、2年間で課程を修了する力量があるかを評価すること、また研究者あるいは教育者、実践家としての看護科学分野における適性、資質、将来的な可能性、及び明確な目的意識を有するか否かを評価する。</p> <p>・社会人特別選抜では、専門科目(看護科学に関連した基礎課題)と英語・小論文の筆記試験、口述試験により、学力査定と人物評価を行う。専門科目の試験は、一般入試と同じ問題とする。英語の試験では、大学生レベルの英文読解力を評価することを目的に試験を行う。小論文の試験では、医療に関連する考えを論理的に論述する能力を評価することを目的に出題する。口述試験の目的ならびに試験時間は一般入試と同様とする。</p> <p>・外国人留学生が受験する場合には、英語による問題ならびに設問の作成等の配慮をする。</p>
	<p>博士後期課程</p>	<p>求める人材</p>	<p>博士前期課程や修士課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、新たな知識の創造をととして看護科学の知識体系に寄与する意欲を持つ</p>

			人材を求める。さらに、学際的および国際的な視点に基づき、実践と理論の架け橋となるための研究者、教育者、高度専門職者を目指す人材を求める。
		入学者選抜方針	<p>・8月に入学試験を実施し、8月期の入学試験において定員に満たない場合には2月に再度試験を実施する。</p> <p>・募集人数は8名とする。</p> <p>・出願資格は、次のいずれかに該当する者とする。①修士の学位を有する者、あるいは入学前年度3月までにその見込みのある者、②専門職学位を有する者、あるいは入学前年度3月までにその見込みのある者、③外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、あるいは入学前年度3月までにその見込みのある者。④本学大学院において行う出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者及び入学前年度3月までに24歳に達する者。</p> <p>・入学試験では、専門科目と英語の筆記試験、口述試験により、学力査定と人物評価を行う。専門科目の試験では、受験者の看護に関する専門知識を評価することを目的に、看護や医療に関連する文章を用いた出題をする。英語の試験では、海外の学術論文を活用するだけの英語能力があるかを評価することを目的に出題する。口述試験では、独創性のある研究を大学院生として行う力量があるか、また研究者あるいは教育者、実践家としての看護科学分野における適性、資質、将来的な可能性、及び明確な目的意識を有するか否かを評価する。</p> <p>・外国人留学生が受験する場合には、英語による問題ならびに設問の作成等の配慮をする。</p>
<p>体育学 学位プログラム</p>	<p>博士前期課程</p>	求める人材	<p>世界の平和と友好を構築し、地域社会に生きる人々の豊かな生活に貢献する、スポーツを愛し、運動文化と社会環境、体育・身体活動・スポーツにかかわる諸問題、そして身体と運動とのメカニズムを理解する能力を有し、リーダーとしてグローバルに活躍できる資質を持った人材を求める。</p> <p>また、各競技種目で国を牽引する監督・コーチとなり、将来各統括組織で指導的役割に付くことが期待される人材、及び大学等の教育機関において国のコーチ教育を先導していく人材を求める。</p>
		入学者選抜方針	<p>・推薦入試(一般・社会人特別選抜)と一般入試(一般・社会人特別選抜)を実施。</p> <p>・推薦入試は、一般:書類審査100点、口述試験100点、社会人:書類審査150点、口述試験50点。</p> <p>・一般入試は、一般:外国語試験150点、口述試験50点、専門科目試験200点、社会人:口述試験100点、専門科目試験200点。</p>
<p>スポーツ・オリンピック学学位プログラム</p>	<p>博士前期課程</p>	求める人材	<p>次のような熱意と資質を持つ者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリンピック・パラリンピックに関する基礎知識を持ち、スポーツのインテグリティを進展させることに対して意欲・使命感を持つ者 2. スポーツ・体育・健康に関連した学問に関する基礎的知識を持ち、スポーツに関わる実務経験(スポーツ実践、コーチングなど指導、イベントマネ

			<p>ジメントなどの経験)のある者</p> <p>3. オリンピック・パラリンピック教育やスポーツマネジメントに関心のある者</p> <p>4. 英語によるコミュニケーション能力があり、協力して成し遂げることの大切さや公正さについて理解している者</p>
		入学選抜方針	<p>一般選抜のみを行う。前年 11 月に Web で募集要項を公開する。Web での出願を 1 月中旬から 2 月中旬までとし、志望動機や研究計画などの書類を受け付ける。3 月中旬に第一次入試(書類選考)を実施するが、書類選考では、志望動機、研究計画、これまでの経験などについて評価し、A(80 点以上:ぜひ入学させたい)、B(70-79 点:可能なら入学させたい)、C(70 点未満:当学位プログラムにはふさわしくない)の 3 段階で評価し、A 及び B 評価の者を定員の 2 倍をめどに合格させる。二次審査として口述試験を 4 月初旬に行い、志望動機、研究計画、スポーツ・オリンピック学に関する基礎的知識、英語などコミュニケーション力の合計点(3 名の審査員の合計で 300 点満点)と書類選考との総合点で合否を判定する。</p>
<p>体育科学 学位プログラム</p>	<p>博士後期課程</p>	求める人材	<p>スポーツ活動の実践や運動指導の経験を踏まえ、体育・健康・スポーツに関わる諸現象に対して高い関心を持ち、そこから派生する諸問題の解決に向けた研究の推進及び成果の公開、さらに教育者・研究者として必要な知識・技能の習得並びに協同して社会的課題に取り組むことに情熱を持つ人材を求める。</p>
		入学選抜方針	<p>・修士論文と研究計画書をもとに口述試験を行い、研究者としての基礎的な能力を評価する。</p> <p>・外部英語試験(TOEFL, TOEIC)をもとに、国際情報発信能力を評価する。</p> <p>さらに、下記の事前評価を行うことで、入学後に次世代健康スポーツ科学履修モデルの履修を認める学生を事前選抜する。</p> <p>・健康又はスポーツ分野における実践経験の報告書を評価する。</p> <p>・英語による研究発表と口述試験を行い、国際連携力を評価する</p>
<p>コーチング学 学位プログラム</p>	<p>3 年制博士課程</p>	求める人材	<p>一定レベル以上の競技歴もしくは指導歴を有し、コーチングに関わる様々な課題に対し、研究を通して真摯に解決しようとする高い志を持っている人材を求める。さらに、世界に目を向けて活動しようとする情熱を持った人材を求める。</p>
		入学選抜方針	<p>以下の合計得点(500 点満点)によって選抜する。</p> <p>・書類審査(200 点)</p> <p>・英語(100 点)</p> <p>・口述試験(200 点)</p>
<p>スポーツウエルネス 学学位プログラム</p>	<p>博士前期課程</p>	求める人材	<p>体育・スポーツの推進並びに心身の健康増進にかかわる実務実績と基礎知識を有し、これを基盤としたリカレント教育を通して研究能力を高めようとする意欲や関心を持ち、高度専門職業人として各種関連領域で活躍できる人材を求める。</p>
		入学選抜方針	<p>推薦入試と一般入試を実施。配点は、推薦入試は書類審査 50 点、口述試験 50 点、一般入試は、書類審査 30 点、専門試験 30 点、口述試験 40</p>

			点で合計得点により選抜する。
	博士後期課程	求める人材	体育学又は保健学分野に関連する研究業績(修士号)、スポーツ又はウエルネスプロモーション分野で2年以上の社会人実践経験、ならびに国際的マネジメントが推進可能な語学力及びコミュニケーション能力を有する者を求める。
		入学者選抜方針	入学者選抜は、1次で書類審査を行い、2次では口述試験による専門力審査を行う。配点は書類審査 80 点、外国語試験(TOEIC の点数)40 点、口述試験 80 点で合計得点により選抜する。
芸術学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	造形芸術に関する基礎的な知識・技能と高い関心を持ち合わせ、現代社会の芸術に対する多様化し高度化した要求に応え、様々な課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする意欲的な人材を求める。
		入学者選抜方針	・専門領域に関する試験を実施し、領域の特性に応じた思考力、表現力、構想力等を評価する。 ・専門領域に関する能力、語学力、学習意欲から総合的に判断し、合格者を決定する。
	博士後期課程	求める人材	理論研究を主とする場合には、専門領域に関する知識および知的探求能力とともに、芸術に対する深い理解と感受性を有した人材を求める。制作研究を主とする場合には、独自の表現世界を確立するための創造的態度と能力とともに、分析的・合理的思考力を有した人材を求める。
		入学者選抜方針	・出願期間を1月に設定し、入学試験を2月期に実施する。合格者は2月に発表する。 ・選抜においては、修士論文またはそれと同等と認められる研究内容、および入学後の研究計画について口述試験を行う。またこれに基づき、専門領域に関する質疑応答を行う。
デザイン学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	地域や文化の壁を越えた問題解決策を提案する意欲のある人材、常に新しい解決策を生み出すことに挑戦し、成果を生み出す粘り強さを身に付ける意欲のある人材を求める。
		入学者選抜方針	選抜においては、デザインの表現技能に優れた者のみならず多様な研究教育分野からの応募が可能になるように専門領域に関する筆記試験と口述試験によって専門適性を評価する。外国語は英語外部検定(TOEIC、TOEFL、IELTS 等)のスコアを提出させ、総合的に合否を判断する。
	博士後期課程	求める人材	地域や文化の壁を越えたデザイン問題を理論的に解決する意欲のある人材、常に新しい研究課題を生み出すことに挑戦し、成果を生み出す粘り強さを身に付ける意欲のある人材を求める。
		入学者選抜方針	選抜においては、デザインの表現技能に優れた者のみならず多様な研究教育分野からの応募が可能になるように専門領域に関する口述試験によって専門適性を評価する。
世界遺産学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	世界遺産の保護管理や活用のみならず、多様な文化の交流と継承に関する国際協力、生物多様性をはじめとする地球環境への取り組み、観光を含む地域振興の取り組みなどに対して、幅広い関心を有し、研究活動に必要な学力と資質を備える学生を求める。

		入学者選抜方針	入学試験は、筆記試験と口頭試問によって行い、語学力、専門能力の他、学習に対する意欲や資質を総合的に評価する。
	博士後期課程	求める人材	世界遺産の評価、保存、管理と活用に広い視野と柔軟な思考をもって取り組む意欲を持ち、研究活動に適した学力と資質を備えた学生を求める。
		入学者選抜方針	入学試験は、口頭試問によって行い、専門に関わる研究能力とプレゼンテーション能力を重視して、選抜を行う。
医学 学位プログラム	医学の課程	求める人材	生命現象の理解や疾病の克服に貢献できる人材養成を目的としており、この目的にふさわしい能力、倫理観、目的意識をもつ人材を求める。より具体的には、英語で履修する能力と意欲を有し、独創性を追求し、人類の未来に貢献する強い意思を持つ学生を、広く世界から受け入れる。学部(学類)並びに修士課程での専門分野は問わない。個別指導や個別審査には日本語または英語が用いられる。
		入学者選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験および口述試験を行い、入学者を選抜する。 ・筆記試験は、英語の能力および医学・生命科学に関する基礎知識の両方を評価しうる問題を作成する。 ・口述試験は、日本語あるいは英語で行い、目的意識、倫理観、専門分野における基礎知識、研究意欲、コミュニケーション能力等を評価する。
情報学 学位プログラム	博士前期課程	求める人材	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の利活用に深い関心を持ち、文理融合の学際的アプローチにより、問題の解明・解決に取り組もうとする意欲のある人材 ・情報学または周辺諸科学の基礎知識を持ち、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、語学力を有する人材
		入学者選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程は推薦入学試験と一般入学試験により選抜する。推薦入学試験においては、所属長の推薦を受けた学士取得見込み者に対して口述試験を行う。一般入学試験においては、外国語試験と口述試験を行う。一般入学試験では、英語による受講を希望する学生向け特別選抜と、実務経験を有する社会人向けに外国語試験を免除した特別選抜を実施する。国外の居住者には、口述試験にビデオ会議ツールを使用する。 ・外国語成績、口述試験成績を点数化し、それらの結果から総合的に可否を判定する。
	博士後期課程	求める人材	<ul style="list-style-type: none"> ・文理融合の学際的アプローチにより、目的意識をもって情報の利活用に関する問題の解明・解決に取り組む意欲のある人材 ・十分な基礎的スキルを持ち、国際的に活躍できるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、語学力を有する人材 ・研究遂行のためのスケジュール設定、研究遂行、成果の展開ができる人材

		<p>入学者選抜方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入学試験と一般入学試験により選抜する。推薦入学試験では、推薦を受けた研究業績を有する修士取得者、あるいは推薦を受けた成績優秀な修士取得見込み者に対して口述試験を行う。一般入学試験では、口述試験を行う。一般入学試験においては、社会人向けの特別選抜と、英語による受講を希望する学生向け特別選抜を実施する。国外の居住者には、口述試験にビデオ会議ツールを使用する。 ・口述試験成績を点数化し、それらの結果から総合的に合否を判定する。
ヒューマンバイオロジー 一学位プログラム	一貫制博士課程	<p>求める人材</p> <p>本学位プログラムは、ヒトの生命の維持、適応及び継承のメカニズムを理解する能力を有し、広く産学官にわたりグローバルに活躍できるリーダーとなる資質を持った人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p> <p>現在持っている知識量を問うことはせず、人間力、具体的には与えられた環境及び現在持っている知識・技能を使って論理的に推論できるか、相手にわかりやすく説明できるか、相手の説明を理解できるか、困難が生じたときにどのように対処するか、を評価する。</p>
ライフイノベーション (病態機構) 学位プログラム	博士前期課程	<p>求める人材</p> <p>病態機構分野におけるイノベーションを実現する意欲、その実現に必要な専門知識および高度英語実践力を修得するに十分な素養を持つ人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類審査により、本学位プログラムで学ぶために必要な学士レベルの知識を有しているか、研究背景・将来の展望を英語により文章で説明できる能力があるかを評価する。 ・英語能力試験により、本学位プログラムで学ぶために必要な英語能力(CEFR 基準で B2 以上)を有しているかを評価する。 ・口述試験により、病態機構分野におけるイノベーションを実現する意欲、英語で説明・議論できる能力があるかを評価する。
	博士後期課程	<p>求める人材</p> <p>病態機構分野におけるイノベーションの実現が期待される研究基礎力、その実現に必要な専門知識、国際社会において研究に関わるあらゆる活動を行うのに十分な英語の運用能力の修得に十分な素養、を持つ人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類審査により、修士レベルの専門知識を有しているか(在籍課程での成績が優秀であるか)、研究背景・研究計画および研究成果の社会還元について英語で具体的に説明できる能力があるかを評価する。 ・英語能力試験により、本学位プログラムで研究活動を行うために必要な英語能力(CEFR 基準で B2 以上)を有しているかを評価する。 ・口述試験により、病態機構分野におけるイノベーションを実現するための意欲および必要な研究基礎力、英語で説明・議論できる能力があるかを評価する。
ライフイノベーション (創薬開発) 学位プログラム	博士前期課程	<p>求める人材</p> <p>創薬開発分野におけるイノベーションを実現する意欲、その実現に必要な専門知識および高度英語実践力を修得するに十分な素養を持つ人材を求める。</p>
		<p>入学者選抜方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類審査により、本学位プログラムで学ぶために必要な学士レベルの知識を有しているか、研究背景・将来の展望を英語により文章で説明できる能力があるかを評価する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・英語能力試験により、本学位プログラムで学ぶために必要な英語能力 (CEFR 基準で B2 以上) を有しているかを評価する。 ・口述試験により、創薬開発分野におけるイノベーションを実現する意欲、英語で説明・議論できる能力があるかを評価する。
	博士後期課程	求める人材	創薬開発分野におけるイノベーションの実現が期待される研究基礎力、その実現に必要な専門知識、国際社会において研究に関わるあらゆる活動を行うのに十分な英語の運用能力の修得に十分な素養、を持つ人材を求める。
		入学者選抜方針	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査により、修士レベルの専門知識を有しているか (在籍課程での成績が優秀であるか)、研究背景・研究計画および研究成果の社会還元について英語で具体的に説明できる能力があるかを評価する。 ・英語能力試験により、本学位プログラムで研究活動を行うために必要な英語能力 (CEFR 基準で B2 以上) を有しているかを評価する。 ・口述試験により、創薬開発分野におけるイノベーションを実現するための意欲および必要な研究基礎力、英語で説明・議論できる能力があるかを評価する。